

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

① 学校の現状や課題

本校は、県立2校目の併設型中高一貫教育校として平成17年に開校し、平成27年10月には創立10周年記念式典を挙行、次の10年に向け新たな歩みを始めている。

本校設立のねらいは大きく二つある。一つ目は、高校受検のない6年間というスパンで、よりじっくりと優れた人材を育成すること、二つ目は、そうした魅力ある学校づくりを進めることを通して、特に中学生の進路意識を刺激し、より高い自覚を持ってそれぞれの中学生を送らせ、県北地区の教育の更なるレベルアップに資することである。

本校の使命・存在意義は教育目標として次のように示されている。

「21世紀を自らの判断で生きる人間の育成」

- (1) 6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、生徒の個性や創造性を伸ばし、多様な進路希望に対応することができるようにする。
- (2) 国際社会で必要とされる能力を総合的に身に付け活躍できるようにする。
- (3) 高度情報化社会において自らの可能性を広げることができるようにする。
- (4) 郷土から学び、郷土を愛することができるようにする。

開校以来、この教育目標を掲げ、中高一貫教育校の特性を生かして、生徒一人一人の個性を重視し、確かな学力の定着と国際化・情報化に対応した教育活動の構築を目指してきた。その結果として、進学面では国公立大学合格者数は例年30名近くの一定の実績を上げており、就職においては早期に内定率100%を達成している。部活動面でも、水泳部、陸上競技部、ソフトテニス部のインターハイ出場、文化部の全国大会出場を始めとして、各種大会で好成績を収めている。

また、入試関係では中学校への志願者数はこれまで1倍を切ったことはなく、近年の高校入試での前期選抜・一般入試においては普通・国際情報両学科で定員を上回るなど、開校以来、新しい形態の学校として試行錯誤を重ねてきた結果、地域の信頼を得られてきていると捉えている。

しかしながら課題もある。本校はこれまで、国際教育を推進するため、中学校のカリキュラムに「英会話の時間」を設定することに始まり、中高を通して、スピーチコンテスト、英語劇、海外修学旅行（中：韓国、高：シンガポールなど）、国際交流セミナー参加、海外研修や留学の推進等々に取り組んできた。また、情報教育においても、中学校のカリキュラムに「情報リテラシー」という学校設定科目を配置するとともに、高校の国際情報科はもとより、普通科においても情報教育の充実を図るなど力を入れてきた。

こうした取組の成果を一層確かなものとするため、個々の取組をより一層充実、関連付けて、学校全体としてどのように教育目標に迫るのか、さらに意識的・計画的にプログラムを構築する必要がある。

今後は、高校からの入学生にとっても学びがいのある確かな育成プログラムを構築し、地域の期待や信頼に応えられる学校づくりに努めたい。「教育目標が達成される特色ある教育を行っている」との評価が得られるように、国際化・情報化に対応した人材を育てる学習プログラムを再構築し、中高一貫教育校の魅力を一層高めたい。

そして、県北全域から志願者を集められる学校に成長させ、本校の社会的使命を果たして行きたい。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

少子化の進行により、今後平成32年度末までに、本校へ進学する生徒の多い鹿角小坂、大館北秋地区の中学校卒業生数は約200名、40人学級換算で5学級相当の減少となる。第七次計画前期学級減計画では、期間中に大館北秋地区で4～5学級減が予定されている。また、高齢化の進行は、学校を取り巻く地域社会の衰退につながりかねず、地域の教育力の低下を招くことなども危惧される。

現代社会は、情報化・グローバル化の進展により、時間と距離の壁が見事なまでに突破され、民族や国家の壁を越えた世界となっている。こうした世界的趨勢に鑑み、大館市では、従来からの社会経済・地域振興策として退職者、高齢者の活用による農業やリサイクル産業誘致を始めとする工業活性化策、空き店舗活用の促進等による商業活性化策等々、多方面からの施策を講じて、地域社会・地域経済の活性化を図ろうとしている一方で、地元企業の世界的に通用する高い技術力や優れた特産品等をもって近隣諸国等の海外に打って出るとした、地域創生を目指した方針が示されており、グローバルな視野を持ちながら、ふるさとの発展を志向し、地域にあるいは世界に貢献しようとする人材の育成は急務である。さらにその実務面での交渉等の際に活躍しうる人材として、専門知識を根底に備えたビジネスコミュニケーション能力等を持った人材育成も強く求められており、普通科と国際情報科を設置している本校の果たす役割は一層増大するものと捉えている。

③ 目指す方向性や学校像

情報化・グローバル化を底流とする今後の社会を展望する時、「21世紀を自らの判断で生きる人間の育成」という本校の教育目標は、その必要性を一層増していると捉えている。また、「21世紀を自らの判断で生きる人間」という言葉に込められた人間的資質、即ち、本校の校訓「明朗・礼節・進取・自律」に謳われる協調性、道徳性、主体性等々の資質や未来社会を切り拓く人間的スキル、即ち、コミュニケーション能力、国際理解力、情報処理能力、マネジメント能力等々も未来に向かって普遍的価値を有している。本校は、商業高校を母体とする併設型中高一貫校として、その持てる教育資源のすべてを活用してこれらの資質能力を育み、「21世紀を自らの判断で生きる人間」として、広く社会の発展に寄与する人材を育成する学校を目指す。

④ 5年間を通しての具体的目標

指標名	現状（年度等）	目標（以上）
皆勤賞受賞者数	34人（平成26年度）	50人
	38人（平成27年度）	
就職決定率	100%（平成26年度）	100%
	100%（平成27年度）	
国公立大学合格者数	27人（平成26年度）	50人
	25人（平成27年度）	
東北大学等難関大学及び医学部合格者数	0人（平成26年度）	5人
	1人（平成27年度）	
国際教養大学合格者数	0人（平成26年度）	5人
	2人（平成27年度）	

指 標 名	現状（年度等）	目標（以上）
海外姉妹校交流参加者数	15人（平成26年度） 14人（平成27年度）	30人
小中への姉妹校交流紹介回数	なし（平成26年度） なし（平成27年度）	10回
実用英語技能検定2級以上合格者数	16人（平成26年度） 3人（平成27年度）	20人
TOEIC（IP）500点以上取得者数	0人（平成26年度） 0人（平成27年度）	5人
日商簿記検定2級合格者数	8人（平成26年度） 7人（平成27年度）	15人
FP（ファイナンシャルプランニング）技能士3級以上合格者数	24人（平成26年度） 17人（平成27年度）	25人
全商簿記実務検定1級合格者数	20人（平成26年度） 21人（平成27年度）	25人
全商情報処理検定1級合格者数	6人（平成26年度） 9人（平成27年度）	15人

具 体 的 な 取 組 等

1 「基本的生活習慣の確立と健康な心と体の育成」

挨拶を励行し、規律ある生活態度を身に付けさせるとともに、中高合同行事や部活動などの特別活動の充実により、豊かな心と健やかな体を育成する教育を推進する。

2 「特色ある中高一貫教育の推進」

中高一貫教育校としてのキャリア教育全体計画に連動した本校独自の「6年間の学習プログラム」や学校設定教科・科目の設定、中高一貫教育校の特性を生かした学校行事等の中高職員の連携による設定及びそれらについての検証と改善を進め、豊かな人間性を育む教育を推進する。

3 「キャリア教育の推進と自立した学習者の育成」

6年間を見通したPDCAサイクルによる中高の系統的なキャリア教育を通して、主体的に進路を考え選択し、学習に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力等を含めた確かな学力を身に付け定着させる。

4 「国際教育・外国語教育・情報教育・商業教育の推進」

国際教育と情報教育等を主軸とした系統的指導プログラムを、LHRや総合的な学習の時間等を活用して構築し、国際交流活動の推進、コミュニケーション能力や情報活用能力、マネジメント能力、ビジネス実務能力等の育成を目指す。同時に、そこで育成される資質能力を活用し、主体的・探究的な姿勢を育む自由課題研究等の推進に努める。

5 「開かれた学校として、地域社会との連携の強化」

教育活動の成果を積極的に地域に還元し、活性化に資するとともに、地域の各種団体等、地域の教育力を教育活動の中に生かし、相互の連携及び協力に努め、社会の一員としての自覚と責任感等を育てる教育を推進する。